

ねらい

5歳児:お正月遊びを通して、小学生や他園の友達とかかわりを重ね、進学への安心感をもつ。  
簡単なルールを守りながらお正月遊びを楽しみ、文字や数字に親しみをもったり、様々な友達とかかわる楽しさを感じたりする。  
1年生:自分たちが提案した遊びを、どのようにすれば5歳児が楽しめるかを考えながら、寄り添ったり、手助けをしたりして関わる。

本時のポイント

・事前研修において、保育所や幼稚園で楽しんでいるお正月遊びを紹介し、かるたやすごろくで文字や数字に親しんでいる姿を伝えた。小学校も事前に地域の方と昔遊びを通して触れ合う経験をしていた。これまでの子どもの経験を踏まえ、子どもが興味をもっている遊びを中心に取組を進めることにした。

実践内容

保幼で混合のチームをつくり、小学校体育館で小学生が考えた遊びのコーナー(コマ・すごろく・羽つき・福笑い・かるた)を時間ごとに交代で周り、小学生は担当のコーナーで遊びを教えたり、遊んだりする。

<コマ回しコーナー>

幼稚園や保育所でも遊んでいる紐ゴマを用意し、1年生が5歳児の分のコマに紐を巻いて関われるようにする。



コマの紐はこうやって巻くんだよ。やってあげるね。

<福笑いコーナー>

1年生がつくった福笑い。1年生が「これは目だよ」等と言いながら5歳児に渡すことで関わるきっかけをつくる。

面白い顔になったね！  
笑っちゃいそうだよ。



<かるたコーナー>

枚数を少なくすることで、一回の勝負を短くし、繰り返し遊べるようにする。



1年生がかるたを読むからね。  
二人で勝負だよ。

交流を振り返って

事後研修では小学生の振り返りシートから、「コマに紐を巻いてあげたら嬉しそうにしてくれた」と、自分のしたことを5歳児が喜んだことに嬉しさを感じている様子がわかった。また、交流後に、多くの5歳児が自分の幼稚園や保育所で紐ゴマに挑戦したり、1年生と同じように自分たちですごろくをつくったりし、1年生に憧れ、やってみようとする姿が見られた。年度当初は互いに「幼稚園(保育園)の子」「1年生の人」という呼び方だったのが、年間を通して保幼小の子どもたちが混合チームで交流することで、顔見知りになって親しみもち、「〇〇ちゃん」と呼ぶようになった。関係性が深まり、「小学校に行っても、仲間がいるから大丈夫」と、他園の友達や小学生とのつながりができ、安心感を得るようになった。教員同士も年間を通して事前協議や事後協議をすることで、日ごろの子どもの姿や教師の願いなどを気軽に話し合える関係性を築くことができ、交流時の一人一人の関わりや日々の支援に活かすことができた。